

報道各位

「Offshore Technology Conference 2021 展示会」に参加

一般社団法人 日本船用工業会

当会は、日本財団助成事業として、8月16日から8月19日まで米国ヒューストン市で開催された「Offshore Technology Conference (OTC) 2021」に参加した。OTC はオフショアに関するイベントとしては世界最大規模のものであり、当会の参加は、コロナ禍により展示会自体が中止となった昨年を除き、2013年以来、今年で8度目となった。

今回は、我が国石油開発関連企業及び当会会員企業等として、(株)INPEX、(国研)海洋研究開発機構<JAMSTEC>、(一財)日本海事協会<Class NK>、ダイハツディーゼル(株)、富士貿易(株)、Mitsubishi Heavy Industries America の計6社・機関にてジャパンパビリオンを形成し、日本製オフショア関連製品のPRを行うとともに、来場した世界各国の海洋石油ガス関係者らと情報交換を行った。また、本パビリオンでは、一貫したブランドイメージでPRを行うために策定した「日本パビリオンの基本デザイン」を初めて採用した。なお、今次展示会への出展は、当会としてコロナ禍が始まった2019年12月以来の海外展示会への参加となったが、日本からの関係者の渡航は控え、JETRO ヒューストン事務所を含め、参加企業等の現地駐在員等のみで対応を行った。

今回の来場者数及び出展者数については大幅に減少した様子であったが、コロナ下での開催という事情により過去との比較対象とはならないとの主催者判断により、具体的な数字は非公表となった(参考:前回 OTC 2019 来場者数 59,200 人、出展者数 2,300 社 100 か国)。因みに、当方の会場内での目算では、出展者数は約 520 社であり、前回の 1/4 程度であった。

開催形態として、OTC では、これまで「メインホール」、「アリーナホール」及び「屋外」の3箇所を会場として使用していたが、今回は「メインホール」のみを使用して、規模を縮小して開催された。また、現地での参加に加え、初の試みとしてバーチャルでも参加が可能なハイブリッド方式が採用された。

会場内の様子としては、大手エネルギー会社やエンジニアリング会社の出展が減少したため、例年メインホールでの出展ができない中小規模の企業が大手企業と並んで出展ブースを構えていた。また、日本以外で国別パビリオンを形成していたのは、フランス、イタリア、ブラジルなどであり、中国・韓国を含め常連国のパビリオン設置も少ない状況であった。

また、会場内で行われていたテクニカルセッションでもハイブリッド形式が採用され、スピーカー、参加者ともにオンラインでの参加が多数派を占めていた。セッションのテーマは、「エネルギー移行」「カーボンフットプリント」等のカーボンニュートラル関連がメインとなっており、昨今のトレンドを色濃く反映させる結果となった。同セッションでは、シェル、エクイノール等の石油関連大手企業の代表がプレゼンテーションを行い、今後も石油ガス生産の必要性に言及しつつ、「ネットゼロ」をビジネス機会と捉え、脱炭素化や炭素捕捉貯蔵利用(CCUS)技術の開発、風力・波力等の再生可能エネルギー、水素再生等への積極的な投資を行っていく旨を表明した。

以上、当会として1年8か月ぶりの国際海事展参加であったが、世界的な脱炭素化の潮流の中、オフショア市場や OTC の開催形態が転換点にあることを強く感じさせるものであった。

【展示会概要】

名 称：Offshore Technology Conference 2021

開催期間：2021年8月16日（月）～ 8月19日（木）

場 所：NRG Park

【日本パビリオン概要】

展示場所：（メインホール）ブース No.3041

（オフショア関連企業等）3社

（株）INPEX、（国研）海洋研究開発機構、（一財）日本海事協会

（参加会員企業等）3社

ダイハツディーゼル（株）、富士貿易（株）、Mitsubishi Heavy Industries America

以 上

【参考写真】



ジャパンパビリオン①



ジャパンパビリオン②



展示会場の外観と日本パビリオンの案内広告

———本件に関する問い合わせ先———

一般社団法人 日本船用工業会： 業務部 山崎

Email : yamasaki@jsmea.or.jp

TEL : 03-3502-2041
